

目と耳の聞こえについて

3歳児健診で目と耳の健診をするのはどうしてでしょう？



お子さんにこんなことはありませんか？

- 目を細めたり、首を曲げてみたりすることが目立つ
- 片目を隠すといやがる
- テレビやおもちゃに極端に近づいてみる
- まぶしがる・・・など

視力検査はなぜ大切か？

子どもの目の機能は生まれてから発達を続け、6歳ごろまでにはほぼ完成します。3歳児健診で、異常が見逃されると治療が遅れ、十分な視力が得られないことがあります。

3歳児健診の視力検査アンケートは、強い屈折異常（遠視、近視、乱視）や斜視、弱視を発見するための大切な検査です。

※「まだよくわからないみたいだから、見えているようだから」といってそのままにせず、ぜひ視力検査をやってみましょう。

聴力検査はなぜ大切か？

子どもの耳の聞こえは、4歳ごろまでにはほぼ完成します。耳の聞こえと言葉の発達には、密接な関係があります。この時期を逃すと言語の発達が、困難になるといわれています。

3歳児健診の「聴力アンケート」では後天性の難聴（滲出性中耳炎、髄膜炎、外傷などによるもの）や片耳の難聴を発見することができます。

お子さんにこんなことありませんか？

- 3歳までに単語をしゃべらないなど周りの子どもより言葉の数が少ない
- 理解しにくい言葉でしゃべったり、非常に大きい（またはか細い）声を出したりする
- 何度も聞き返す
- テレビの音を非常に大きくする・・・など



精密検査が必要な場合、その他ご心配がある場合は。

○精密検査票を発行して、詳しい検査が受けられるようにご案内します。

○健診で異常が見られなかった場合でも、その後に視覚・聴覚のご心配がある時には、保健センターまでご相談ください。（お子さんの体調は日々変化していきます。目や耳の異常は早期発見・早期対応が何よりも大切です。）

